

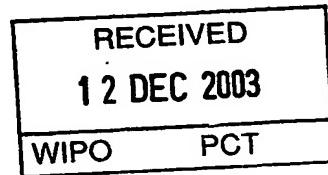
日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

22.10.03

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日  
Date of Application: 2002年10月31日



出願番号  
Application Number: 特願2002-318881

[ST. 10/C]: [JP2002-318881]

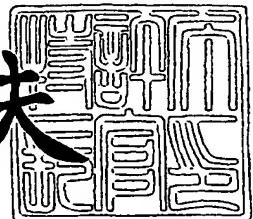
出願人  
Applicant(s): 千寿製薬株式会社

PRIORITY DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH  
RULE 17.1(a) OR (b)

2003年11月28日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願  
【整理番号】 592-02  
【あて先】 特許庁長官 殿  
【国際特許分類】 A61K 31/31  
A61P 27/02

## 【発明者】

【住所又は居所】 兵庫県神戸市垂水区小束山本町2丁目21番1-902  
号

【氏名】 高山 美子

## 【発明者】

【住所又は居所】 兵庫県神戸市西区南別府4丁目366番地の1-106  
号

【氏名】 中村 義邦

## 【発明者】

【住所又は居所】 兵庫県神戸市須磨区白川字不計1番地の6 603号

【氏名】 井上 淳

## 【発明者】

【住所又は居所】 兵庫県西宮市満池谷町4番13-102号

【氏名】 東 光佳

## 【特許出願人】

【識別番号】 000199175

【氏名又は名称】 千寿製薬株式会社

【代表者】 吉田 祥二

## 【代理人】

【識別番号】 100118360

【弁理士】

【氏名又は名称】 松田 玲子

## 【手数料の表示】

【予納台帳番号】 004167

【納付金額】 21,000円

## 【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0104918

【プルーフの要否】 要

【書類名】明細書

【発明の名称】角膜障害治療剤

【特許請求の範囲】

【請求項1】ソマトスタチン受容体作動薬を含有する角膜神経軸索伸展促進剤。

【請求項2】ソマトスタチン受容体作動薬を含有する角膜知覚回復剤。

【請求項3】ソマトスタチン受容体作動薬を含有するドライアイ治療剤。

【請求項4】ソマトスタチン受容体作動薬を含有する角膜上皮欠損治療剤

。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明はソマトスタチン受容体作動薬を含有する角膜神経軸索伸展促進剤、および角膜神経軸索伸展による角膜知覚の回復、改善、並びにドライアイ及び角膜欠損の治療剤に関する。

【0002】

【従来の技術】

レーザー屈折矯正角膜切除術（P R K）、レーザー角膜切削形成術（レーシック；L A S I K）、角膜移植などの角膜手術後には、角膜神経が切断されるため、通常約3週間から約1年間角膜知覚機能の低下症状が起きるといわれている。そしてこの角膜知覚機能の低下は瞬目反射などの障害によるドライアイ症状の悪化とも関係し、角膜手術後の患者では角膜知覚機能の低下およびドライアイ傾向が認められることが問題となっている。

また、ドライアイ患者では、涙液機能の低下から角膜知覚の低下をもたらし、さらにこの角膜知覚の低下がさらなる涙液機能の低下と循環し、角膜表面の症状がさらに悪化することが問題となっている。

しかし、現在角膜手術後の角膜知覚の回復は自然回復に委ねられ、またドライアイの治療においても角膜知覚を回復させるための積極的治療は施されていないのが現状である。

### 【0003】

一方、ソマトスタチン(somatostatin)は、成長ホルモン抑制因子(somatotropin release inhibiting factor; SRIF)として、1973年に視床下部から単離されたペプチドとして見出された。現在までに、5個のサブタイプのソマトスタチン受容体が見出されており、それぞれSSTR1、SSTR2、SSTR3、SSTR4およびSSTR5と命名されている。ソマトスタチンは成長ホルモン抑制因子として神経組織に広く分布し、眼組織においても虹彩、毛様体、網膜にソマトスタチン受容体が存在することが確認されている(例えば、非特許文献1参照。)。

### 【0004】

また、ソマトスタチンは生体内において、内分泌系、外分泌系、神経系などにおいて多彩な機能を有し、例えば、神経伝達や神経細胞成長調節などに関与すること、また、PC12細胞において神経軸索伸展を促進させる作用があると報告されている(例えば、非特許文献2参照。)。

ソマトスタチンが関与する眼疾患としては、緑内障、角膜実質の炎症、虹彩炎、網膜炎、白内障、結膜炎などが知られている(例えば、特許文献1参照。)。

### 【0005】

ソマトスタチンそのもの、またはその類縁体を医薬品として開発する試みもなされており、例えば、ソマトスタチン受容体作動薬として知られているオクトレオタيد(octreotide)はホルモン性腫瘍の治療薬として市販されている。その他、例えば；

ランレオタيد(lanreotide)(例えば、特許文献2参照。)

AN-238(例えば、特許文献3参照。)、

PTR-3173(例えば、特許文献4参照。)、

SSTR2, SSTR3に親和性を有するアミン誘導体(例えば、特許文献5参照。)、

ソマトスタチン受容体機能調節作用を有し、糖尿病、肥満糖尿病合併症などの予防または治療に有用な芳香族アミン誘導体(例えば、特許文献6参照。)、

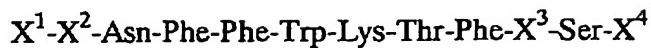
ソマトスタチン受容体作動作用を有し、糖尿病などの予防または治療に有用な縮

合環化合物（例えば、特許文献7参照。）、

例えば、式

【0006】

【化1】



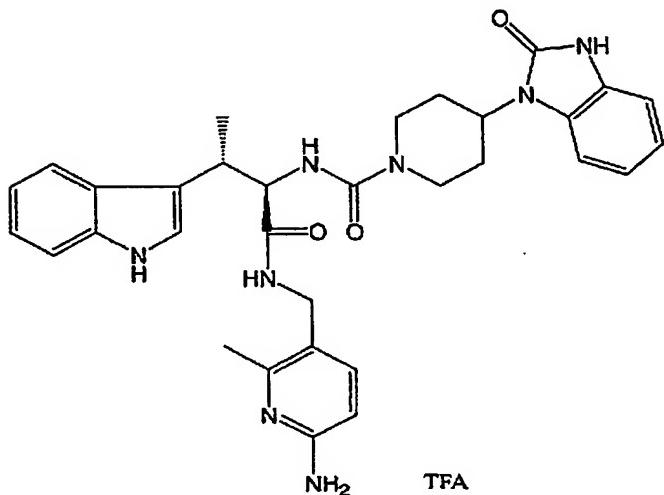
【0007】

[ $X^1$  はAsp-Arg-Met-Pro-Cys, Arg-Met-Pro-Cys, Met-Pro-Cys, Pro-CysまたはCysを、 $X^2$  はArgまたはLysを、 $X^3$  はSerまたはThrを、 $X^4$  がCys-LysまたはCysを示す。]で示されるソマトスタチン様活性を有するペプチド（例えば、特許文献8参照。）、

例えば、式

【0008】

【化2】



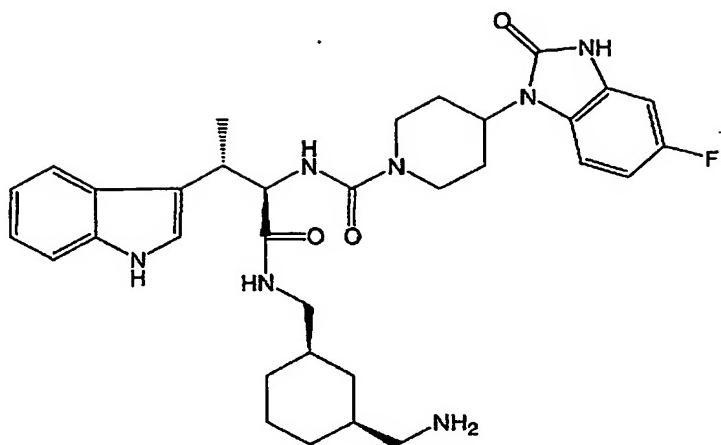
【0009】

などで表されるソマトスタチン作動薬（例えば、特許文献9参照。）、

例えば、式

【0010】

【化3】

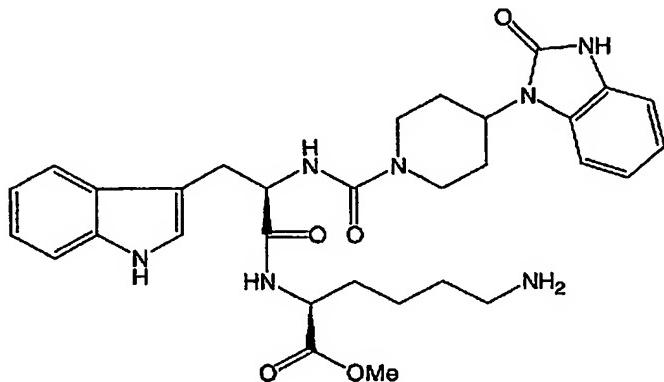


【0011】

などで表されるソマトスタチン作動薬（例えば、特許文献10参照。）、  
例えば、式

【0012】

【化4】

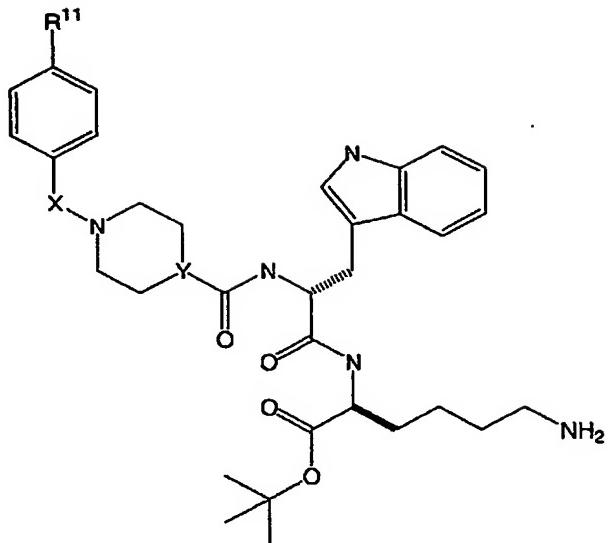


【0013】

などで表されるソマトスタチン作動薬（例えば、特許文献11参照。）、  
式

【0014】

## 【化5】



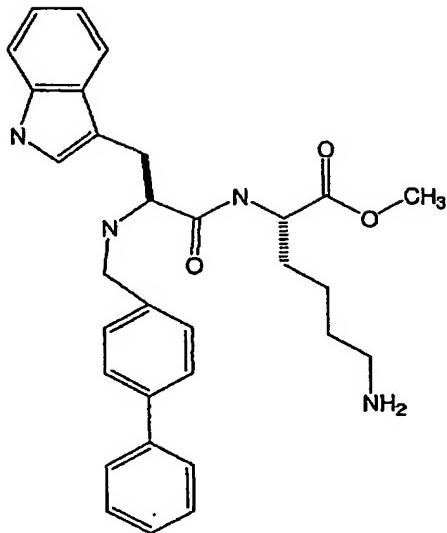
## 【0015】

[式中、R<sup>11</sup>は、ハロゲン原子、シアノ基、カルボキシ基、(C<sub>1</sub>-C<sub>6</sub>)アルキル基、及び(C<sub>1</sub>-C<sub>6</sub>)アルコキシ基から選択した基であり；Xは、-CH<sub>2</sub>-基、-SO<sub>2</sub>-基、-CO-基、又は直接結合であり；そしてYは、CH基又は窒素原子である]などで表されるソマトスタチナゴニスト（例えば、特許文献12参照。）、

例えば、式

## 【0016】

【化6】

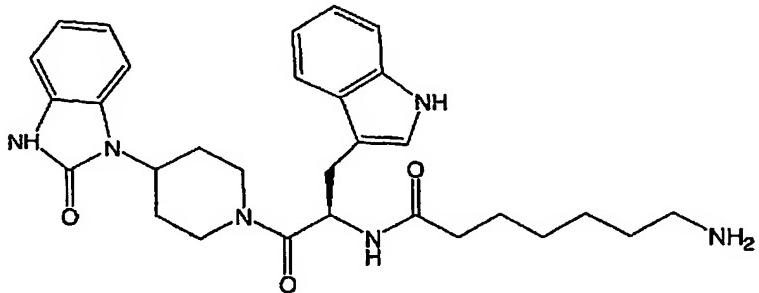


[0017]

などで表されるソマトスタチングニスト（例えば、特許文献13参照。）、  
例えば、5-グアニジノ-2-[2-(トルエン-4-スルフォニル)-1,2,  
3,4-テトラヒドロ-1ソキノリン-3-カルボニル]-アミノ]-ペント  
ン酸メチルエステルなどのSSTR2に作用するソマトスタチングニスト（例  
えば、特許文献14参照。）、  
例えば、式

[0 0 1 8]

【化7】

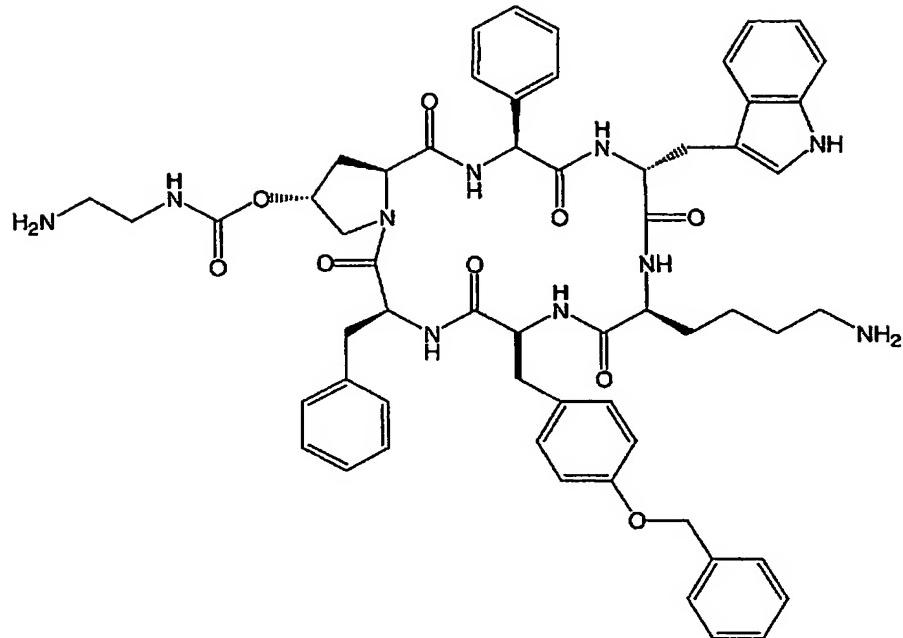


[0019]

などで表されるソマトスタチニアゴニスト（例えば、特許文献15参照。）、  
式

【0020】

【化8】

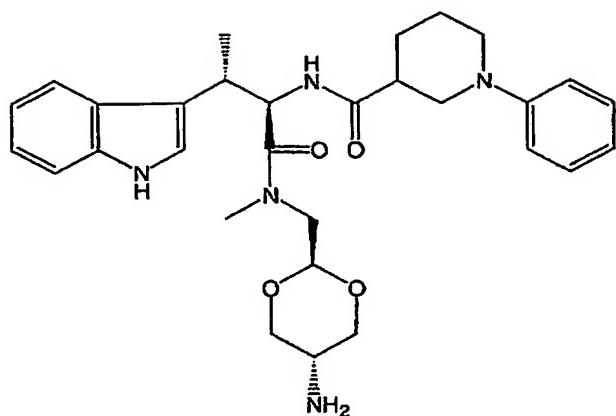


【0021】

で示されるソマトスタチニアナログ（例えば、特許文献16参照。）、  
ソマトスタチンの1以上のサブタイプの受容体からアゴニスト効果を引き起こす  
イミダゾリル誘導体（例えば、特許文献17参照。）、  
ソマトスタチン受容体と親和性を持つヒダントイン誘導体（例えば、特許文献1  
8参照。）、  
ソマトスタチン受容体のリガンドとして有用な4-アミノピペリジン誘導体（例  
えば、特許文献19参照。）、  
例えば、式

【0022】

## 【化9】

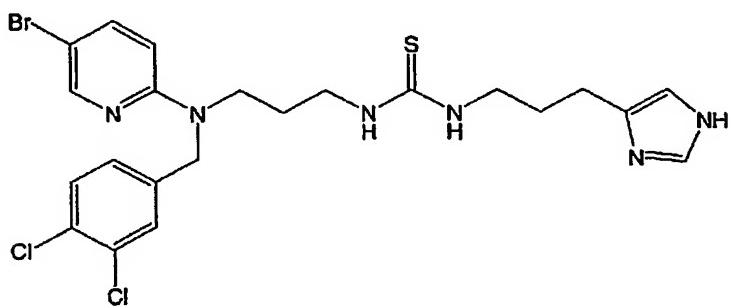


## 【0023】

などで表されるソマトスタチニアゴニスト（例えば、特許文献20参照。）、  
 例えば、Phe-シクロ（Cys-D-Trp-Lys-Cys）-Thr-NH<sub>2</sub>で示されるSSTR1アゴニスト（例えば、特許文献21参照。）  
 選択的SSTR4結合作用を有し、縦内障治療作用が期待されるとして、式

## 【0024】

## 【化10】

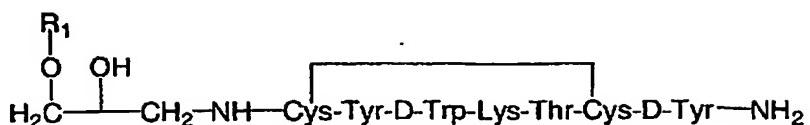


## 【0025】

などで表される化合物（例えば、特許文献22参照。）、  
 エンドセリアルソマトスタチニアゴニスト（例えば、特許文献23参照。）、  
 式

## 【0026】

【化11】

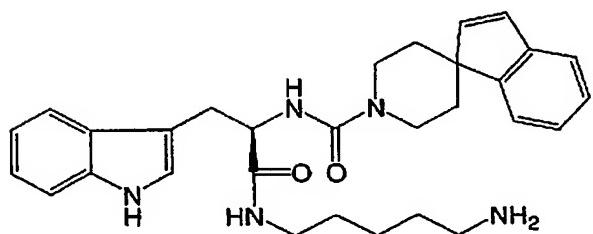


【0027】

[式中、R<sub>1</sub>はC<sub>1</sub>—C<sub>4</sub>アルキル、アダマンチルなどを示す]で示されるソマトスタチンアナログ（例えば、特許文献24参照。）、  
例えば、式

【0028】

【化12】

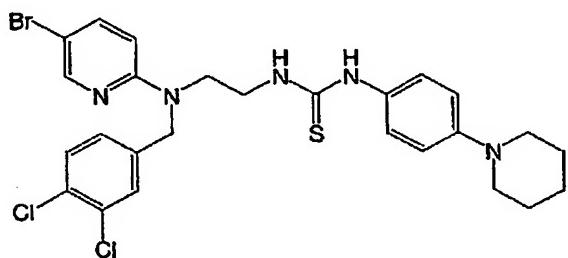


【0029】

などで示されるソマトスタチンアゴニスト（例えば、特許文献25参照。）、  
例えば、式

【0030】

【化13】



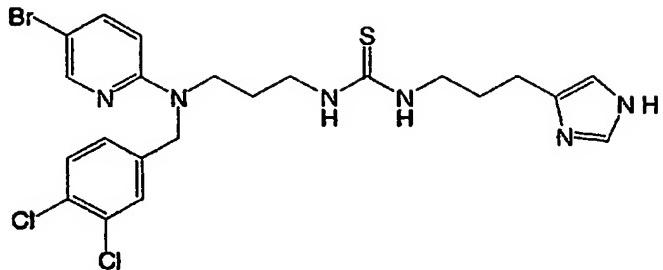
【0031】

などで示されるソマトスタチニアゴニスト（例えば、特許文献26参照。）、

例えば、式

【0032】

【化14】



【0033】

などで示されるソマトスタチンの作働因子（例えば、特許文献27参照。）、

例えば、シクロ[Tyr-D-Trp-Lys-Val-Phe(4-(3-メトキシフェニル)イミダゾール)-Gly]などで示されるサイクリックソマトスタチン類似体（例えば、特許文献28参照。）、

不安、鬱などの処置に有用なSSTR1選択的アゴニストであるエルゴリン誘導体（例えば、特許文献29参照。）、

ソマトスタチン受容体機能調節剤としてのビフェニル化合物（例えば、特許文献30参照。）、および

ソマトスタチン受容体に結合して、Naチャネルを遮断するβ-カルボリン誘導体（例えば、特許文献31参照。）など

が知られている。

【0034】

その一方、角膜においては、角膜上皮にソマトスタチン受容体が存在することは未だ報告されていない。また、角膜の神経に関して、三叉神経の三叉神経節で分岐する第一枝(ophthalmic branch)由来の神経のほとんどが角膜に分布し、角膜の術後知覚回復、角膜上皮の修復などに深く関わっていることが報告されている（例えば、非特許文献3参照。）。

しかし、三叉神経（角膜神経）にソマトスタチン受容体が存在することや、三叉神経（角膜神経）の神経軸索伸展をソマトスタチンが促進させるという報告は認められない。

【0035】

【特許文献1】

特表2002-9739号公報

【特許文献2】

特開平2-289599号公報

【特許文献3】

特表2000-502055号公報

【特許文献4】

特表2002-518339号公報

【特許文献5】

特開2000-226373号公報

【特許文献6】

特開2000-191615号公報

【特許文献7】

特開平11-209356号公報

【特許文献8】

特開平10-174587号公報

【特許文献9】

特表2001-518895号公報

【特許文献10】

特表2001-519811号公報

【特許文献11】

特表2001-519812号公報

【特許文献12】

特開2001-114761号公報

【特許文献13】

特開2002-3498号公報

【特許文献14】

米国特許出願公開第2002/91125号明細書

【特許文献15】

米国特許出願公開第2002/91090号明細書

【特許文献16】

国際公開第2002/10192号パンフレット

【特許文献17】

国際公開第1999/64401号パンフレット

【特許文献18】

国際公開第2001/85718号パンフレット

【特許文献19】

国際公開第2001/44191号パンフレット

【特許文献20】

米国特許第6387932号明細書

【特許文献21】

国際公開第2000/75186号パンフレット

【特許文献22】

米国特許第6127343号明細書

【特許文献23】

特表2002-523465号公報

【特許文献24】

国際公開第2000/10589号パンフレット

【特許文献25】

国際公開第1999/22735号パンフレット

【特許文献26】

特表2001-502712号公報

【特許文献27】

特表2001-525793号公報

**【特許文献28】**

特表2002-518409号公報

**【特許文献29】**

特表2001-527580号公報

**【特許文献30】**

特開2002-80439号公報

**【特許文献31】**

特表2002-517500号公報

**【0036】****【非特許文献1】**

モリ ミキロウ (Mori, Mikiro)、他2名、ニューロサイエンス レターズ (Neuroscience Letters), 1997年, 223巻, 3号, p. 185-188

**【非特許文献2】**

フェリーロ エム. ディー. (Ferriero M. D.)、他2名、ディベロップメンタル ブレイン リサーチ (Developmental Brain Research), 1994年, 80巻, p. 13-18

**【非特許文献3】**

リー エス. エイチ. (Lee S. H.)、他2名、コルネア (Cornea), 1996年, 15巻, p. 235-239

**【0037】****【発明が解決しようとする課題】**

レーザー屈折矯正角膜切除術 (PRK)、レーザー角膜切削形成術 (レーシック; LASIK)、角膜移植などの角膜手術後などの角膜知覚機能低下や、ドライアイ患者における角膜知覚低下が回復し、さらにこの角膜知覚の低下などによる角膜上皮の障害を治療する医薬を提供することである。

**【0038】****【課題を解決するための手段】**

本発明者らは、角膜の術後の角膜知覚回復やドライアイの症状を改善する新し

いタイプの医薬を提供することを目的に検討を行ったところ、ソマトスタチンが三叉神経（以後、角膜神経ということもある。）の軸策伸展促進効果があること、また三叉神経にソマトスタチン受容体が存在することを初めて見出し、これらの知見に基づいてさらに研究をすすめ、ソマトスタチン受容体作動薬を角膜知覚回復などの医薬として利用する本発明を完成した。

### 【0039】

すなわち、本発明は、

- (1) ソマトスタチン受容体作動薬を含有する角膜神経軸索伸展促進剤、
- (2) ソマトスタチン受容体作動薬を含有する角膜知覚回復剤、
- (3) ソマトスタチン受容体作動薬を含有するドライアイ治療剤、および
- (4) ソマトスタチン受容体作動薬を含有する角膜上皮欠損治療剤に関するものである。さらに本発明は、上記医薬を製造する方法、角膜知覚を回復するための方法ならびに角膜神経軸策伸展促進、角膜知覚回復や、ドライアイおよび角膜上皮欠損治療のための組成物を提供するものである。

ここで、ソマトスタチン受容体作動薬とは、ソマトスタチンそのものの他、ソマトスタチン受容体に作用し、ソマトスタチンと同様の作用を示すものをいい、ソマトスタチニアゴニスト、ソマトスタチン類似体、ソマトスタチアナログなどといわれているものを包含する。

### 【0040】

ソマトスタチン受容体作動薬としては、ソマトスタチンそのものの他、ソマトスタチン受容体に作用しソマトスタチンと同様の作用を示すものであれば、いずれの化合物であっても有利に使用できる。そのような化合物としては、例えば、ソマトスタチン受容体作動薬として知られているオクトレオタイド(octreotide)、特開平2-289599号公報（前記特許文献2）に記載のランレオタイド(lanreotide)などのオクタペプチド、特表2000-502055号公報（前記特許文献3）に記載の例えはAN-238などのソマトスタチン類似環状ペプチド、特表2002-518339号公報（前記特許文献4）に記載の例えはPT-R-3173などの主鎖環化ソマトスタチン類似体、特開2000-226473号公報（前記特許文献5）に開示のアミン誘導体、特表2000-19161

5号公報（前記特許文献6）に記載の芳香族アミン誘導体、特開平11-209  
356号公報（前記特許文献7）に記載の縮合環化合物、特開平10-1745  
87号公報（前記特許文献8）に記載のペプチド類、特表2001-51889  
5号公報（前記特許文献9）、特表2001-519811号公報（前記特許文  
献10）および特表2001-519812号公報（前記特許文献11）に記載  
のソマトスタチン作働薬、特開2001-114761号公報（前記特許文献1  
2）、特開2002-3498号公報（前記特許文献13）、米国特許出願公開  
第2002/91125号明細書（前記特許文献14）、米国特許出願公開第2  
002/91090号明細書（前記特許文献15）、米国特許第6387932  
号明細書（前記特許文献20）、国際公開第99/22735号パンフレット（  
前記特許文献25）、特表2001-502712号公報（前記特許文献26）  
に記載のソマトスタチニアゴニスト、国際公開第02/10192号パンフレッ  
ト（前記特許文献16）および国際公開第00/10589号パンフレット（前  
記特許文献24）に記載のソマトスタチニアナログ、国際公開第99/6440  
1号パンフレット（前記特許文献17）に記載のイミダゾリル誘導体、国際公開  
第01/85718号パンフレット（前記特許文献18）に記載のヒダントイン  
誘導体、国際公開第01/44191号パンフレット（前記特許文献19）に記  
載の4-アミノピペリジン誘導体、国際公開第00/75186号パンフレット  
（前記特許文献21）に記載のSSTR1アゴニスト、米国特許第612734  
3号明細書（前記特許文献22）に記載の選択的SSTR4結合作用を有し、緑  
内障治療作用を示す化合物、特表2002-523465号公報（前記特許文献  
23）に記載のエンドセリアルソマトスタチニアゴニスト、特表2001-52  
5793号公報（前記特許文献27）に記載のソマトスタチンの作働因子、特表  
2002-518409号公報（前記特許文献28）に記載のサイクリックソマ  
トスタチン類似体、特表2001-527580号公報（前記特許文献29）記  
載のエルゴリン誘導体、特開2002-80439号公報（前記特許文献30）  
に記載のビフェニル化合物、および特表2002-517500号公報（前記特  
許文献31）に記載のβ-カルボリル誘導体などが挙げられる。

【0041】

本発明の医薬は、哺乳動物（例えばヒト、ラット、マウス、ウサギ、ウシ、ブタ、イヌ、ネコなど）の角膜神経が障害、切断または欠損した、例えばPRKやLASIK後の低下した角膜知覚回復のための治療薬として、あるいは角膜知覚の低下したドライアイの治療薬として有用である。

#### 【0042】

本発明化合物を含有する医薬は全身的または局所的に投与される。全身的には経口投与の他、静脈内注射、皮下注射、筋肉内注射など非経口的にも投与される。局所的には、眼に投与される。

#### 【0043】

本発明化合物を含有する医薬の製剤形態としては、粉末、顆粒、錠剤、カプセル剤、坐剤などの固形剤、およびシロップ剤、注射剤、点眼剤などの液剤などが挙げられる。顆粒および錠剤として製造する場合には、例えば賦形剤（乳糖、白糖、ブドウ糖、デンプン、結晶セルロースなど）、滑沢剤（ステアリン酸マグネシウム、タルク、ステアリン酸、ステアリン酸カルシウムなど）、崩壊剤（デンプン、カルメロースナトリウム、炭酸カルシウムなど）、結合剤（デンプン糊液、ヒドロキシプロピルセルロース液、カルメロース液、アラビアゴム液、ゼラチン液、アルギン酸ナトリウム液など）などを用いることにより任意の剤形を製造することができる。また、顆粒剤および錠剤には、適当なコーティング剤（ゼラチン、白糖、アラビアゴム、カルナバロウなど）、腸溶性コーティング剤（例えば酢酸フタル酸セルロース、メタアクリル酸コポリマー、ヒドロキシプロピルセルロースフタレート、カルボキシメチルエチルセルロースなど）などで剤皮を施してもよい。

#### 【0044】

カプセル剤として製造する場合には、適当な賦形剤、例えば流動性と滑沢性を向上させるためのステアリン酸マグネシウム、ステアリン酸カルシウム、タルク、軽質無水ケイ酸など、また加圧流動性のための結晶セルロースや乳糖などの他、上記崩壊剤などを適宜添加したものを均等に混和または粒状もしくは粒状としたものに適当なコーティング剤で剤皮を施したもの充填するか、適当なカプセル基剤（ゼラチンなど）にグリセリンまたはソルビトールなどを加えて塑性を増

したカプセル基剤で被包成形することもできる。これらカプセル剤には必要に応じて、着色剤、保存剤【二酸化イオウ、パラベン類（パラオキシ安息香酸メチル、エチル、プロピルエステル）】などを加えることができる。カプセル剤は通常のカプセルの他、腸溶性コーティングカプセル、胃内抵抗性カプセル、放出制御カプセルとすることもできる。腸溶性カプセルとする場合、腸溶性コーティング剤でコーティングした化合物または化合物に上記の適当な賦形剤を添加したものをおおむねのカプセルに充填または、カプセル自身を腸溶性コーティング剤でコーティング、もしくは腸溶性高分子を基剤として成形することができる。

#### 【0045】

坐剤として製造する場合には坐剤基剤（例えばカカオ脂、マクロゴールなど）を適宜選択して使用することができる。

#### 【0046】

シロップ剤として製造する場合、例えば安定剤（エデト酸ナトリウムなど）、懸濁化剤（アラビアゴム、カルメロースなど）、矫味剤（単シロップ、ブドウ糖など）、芳香剤などを適宜選択して使用することができる。

#### 【0047】

本発明の医薬を注射剤または点眼剤として製造する場合、医薬上許容される添加物、例えば等張化剤（塩化ナトリウム、塩化カリウム、グリセリン、マンニトール、ソルビトール、ホウ酸、ホウ砂、ブドウ糖、プロピレングリコールなど）、緩衝剤（リン酸緩衝液、酢酸緩衝液、ホウ酸緩衝液、炭酸緩衝液、クエン酸緩衝液、トリス緩衝液、グルタミン酸緩衝液、イプシロンアミノカプロン酸緩衝液など）、保存剤（パラオキシ安息香酸エステル類、クロロブタノール、ベンジルアルコール、塩化ベンザルコニウム、デヒドロ酢酸ナトリウム、エデト酸ナトリウム、ホウ酸、ホウ砂など）、増粘剤（ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ポリビニルアルコール、ポリエチレングリコールなど）、安定化剤（亜硫酸水素ナトリウム、チオ硫酸ナトリウム、エデト酸ナトリウム、クエン酸ナトリウム、アスコルビン酸、ジブチルヒドロキシトルエンなど）、pH調整剤（塩酸、水酸化ナトリウム、リン酸、酢酸など）などを適宜添加した溶液に溶解または分散することによって製造することができる。

**【0048】**

上記シロップ剤、注射剤および点眼剤における添加剤の添加量は、添加する添加剤の種類、用途などによって異なるが、添加剤の目的を達成し得る濃度を添加すればよく、等張化剤は、通常、浸透圧が約229～約343mOsmとなるよう、約0.5～約5.0w/v%を添加する。また、緩衝剤は約0.01～約2.0w/v%程度、増粘剤は約0.01～約1.0w/v%程度、安定化剤は約0.001～約1.0w/v%程度になるように添加する。pH調整剤は、適宜添加し、通常pH約3～約9、好ましくは約4～約8になるように添加する。

特に点眼剤として使用する場合、ソマトスタチン受容体作動薬の濃度は、通常下限は約0.0005w/v%、約0.001w/v%、約0.005w/v%であり、上限は約1.0w/v%、約0.5w/v%、約0.1w/v%、約0.05w/v%、約0.01w/v%に調製される。

**【0049】**

本発明化合物の投与量は対象となる疾患、症状、投与対象、投与方法などにより異なるが、例えばPRK手術後の角膜知覚回復剤として成人の眼に局所的に使用する場合には、例えばソマトスタチン約0.01w/v%含有する点眼液を、1回約20～約50μL、1日数回点眼するのがよい。

**【0050】**

本明細書および図面において、塩基やアミノ酸などを略号で表示する場合、IUPAC-IUB Commission on Biochemical Nomenclatureによる略号あるいは当該分野における慣用略号に基づくものであり、その例を下記する。またアミノ酸に関し光学異性体があり得る場合は、特に明示しなければL体を示すものとする。

DNA：デオキシリボ核酸

cDNA：相補的デオキシリボ核酸

DNase：デオキシリボフクレアーゼ

A：アデニン

T：チミン

G：グアニン

C : シトシン

R N A : リボ核酸

m R N A : メッセンジャー R N A

G l y : グリシン

A l a : アラニン

V a l : バリン

S e r : セリン

T h r : スレオニン

C y s : システイン

M e t : メチオニン

A s p : アスパラギン酸

L y s : リジン

A r g : アルギニン

P h e : フェニルアラニン

T y r : チロシン

T r p : トリプトファン

P r o : プロリン

A s n : アスパラギン

M e : メチル基

### 【0051】

#### 【発明の実施の形態】

本発明を以下の試験例及び実施例に従いさらに詳細に説明するが、本発明はこれらにより何ら限定されるものではない。

### 【0052】

#### 【実施例】

試験例1. ウサギ三叉神経におけるソマトスタチン受容体の発現

##### 1) 使用動物

福崎養兎組合より購入した日本白色種兎を使用した。

### 【0053】

## 2) 試験方法

体重2.0 kgの日本白色種兎をセラクタール(xylazine)：ケタール(ケタミン)=0.5:1の混合液を筋肉内注射(0.9 mL/kg)し、全身麻酔を実施した。生理食塩水で心臓灌流後、網膜と三叉神経節を採取した。TRIzol Reagent (GIBCO BRL社製)を用いたAGPC法により、組織からRNAを抽出した。抽出後の全RNAからDNase処理によりゲノムDNAを除去した後、SuperScript II (GIBCO BRL社製)を用いて逆転写反応を行なった。逆転写反応より得られたcDNA溶液はPlatinum Taq DNA polymerase (GIBCO BRL社)を用いて表1に記す反応条件で行なった。なお、プライマーは表1記載のウサギのソマトスタチン受容体SSTR2遺伝子特異的プライマー(配列番号：1)とSSTR4遺伝子特異的プライマー(配列番号：2)を使用した。

## 【0054】

【表1】

動物	遺伝子	プライマー(5'-3')	PCR反応条件
ウサギ	SSTR2	TGG CCG TCT TCA TTT TCT GCT CGC CGC TCA CTT TGA CCA AG (配列番号：1)	1.5 mM MgCl <sub>2</sub> , pH 8.4 95°C(30秒), 58°C(1分), 72°C(1分) 35サイクル
	SSTR4	GTC GGC AAG ATG CGC GCT GTG AAT GGG GTT GGC GCA GCT GTT (配列番号：2)	1.5 mM MgCl <sub>2</sub> , pH 10 95°C(30秒), 58°C(1分), 72°C(1分) 35サイクル

## 【0055】

## 3) 試験結果

ウサギ網膜と三叉神経節におけるSSTR2およびSSTR4サブタイプをRT-PCR法により解析した結果、SSTR2およびSSTR4とともに発現が認められた。(図1)。

## 【0056】

試験例2. ウサギ三叉神経節細胞における神経軸索伸展促進作用 (In vitro実験)

## 1) 使用動物

福崎養兎組合より購入した日本白色種ウサギ(生後2~3日目)を使用した

## 【0057】

## 2) 試験物質

試験には、ソマトスタチン(CALBIOCHEM社製, Lot B33795), 神経成長因子(Nerve Growth Factor ; NGF-7S, Sigma社製)を使用した。試験物質はリン酸緩衝液(PBS)に $100\mu M$  ソマトスタチン、 $20\mu g/mL$  NGF-7Sになるよう溶解した。調整した試薬は $-80^{\circ}C$ に保存し、使用前に溶解して使用した。

## 【0058】

## 3) 試験方法

三叉神経細胞の単離はChanらの報告(Kuan Y. Chan and Richard H. Haschke. Exp. Eye Res. 41: 687-699, 1985)に従って行った。すなわち、エーテル麻酔下、生理食塩水で心臓灌流後、三叉神経節を切り出し、神経分散液(住友ペーカライト)を用いて、三叉神経節を分散させた後、細胞数を計測して、ポリリジン/ラミニンでコートした24ウェルプレート(住友ペーカライト社製)に細胞を播種した。細胞数は1ウェルあたり約3000細胞とし、培養条件は5% CO<sub>2</sub>、95%空気環境下、 $37^{\circ}C$ とした。播種した細胞は5%仔牛血清(Fetal calf serum; FCS)添加ダブルベッコの修正イーグル培地/F-12(Dulbecco's Modified Eagle's Medium/Nutrient Mixture F-12:DMEM/F-12)培養液で24時間培養し、その後、以下の5群に：

- (1) FCS無添加DMEM/F-12培養液
- (2) FCS無添加DMEM/F-12培養液に最終濃度 $1\mu M$ となるようソマトスタチンを添加
- (3) FCS無添加DMEM/F-12培養液に最終濃度 $10\mu M$ となるようソマトスタチンを添加
- (4) FCS添加DMEM/F-12培養液に最終濃度 $1\mu g/mL$ となるようNGF添加
- (5) FCS添加DMEM/F-12培養液にソマトスタチンおよびNGFをそれぞれ最終濃度 $1\mu M$ および $1\mu g/mL$ となるよう同時に添加

に分けさらに48時間培養した。

ソマトスタチンおよびNGFによる三叉神経細胞の突起形成と軸索伸展に対する効果は倒立顕微鏡を用いた観察によって形態的に評価した。

### 【0059】

#### 4) 試験結果

図4はウサギ三叉神経節細胞を用いた結果を示している。図2中(A)はFCS無添加DMEM/F-12培養液して培養した三叉神経細胞を、(B)はFCS無添加DMEM/F-12培養液に最終濃度 $1\mu M$ となるようソマトスタチンを添加して培養した三叉神経細胞を、(C)はFCS無添加DMEM/F-12培養液に最終濃度 $10\mu M$ となるようソマトスタチンを添加して培養した三叉神経細胞を、(D)はFCS添加DMEM/F-12培養液に最終濃度 $1\mu g/mL$ となるようNGF添加して培養した三叉神経細胞を、(E)はFCS添加DMEM/F-12培養液にソマトスタチンおよびNGFをそれぞれ最終濃度 $1\mu M$ および $1\mu g/mL$ となるよう同時に添加して培養した三叉神経細胞をそれぞれ示す。

FCS無添加培養液で培養した群ではわずかな神経突起の形成が認められた(A)。 $1\mu M$ ソマトスタチン添加群の神経細胞では(A)に比較し、明らかに軸索伸展が促進され(B)、 $10\mu M$ ソマトスタチン添加群の神経細胞でも長い軸索伸展を示す細胞が多く観察された(C)。NGF添加群(D)とNGFとソマトスタチンを同時に添加した群(E)の神経細胞においても、FCS無添加群(A)に比較して、明らかに神経細胞の神経軸索伸展促進作用が認められた。

### 【0060】

#### 試験例3. ウサギ角膜神経切断後の角膜知覚機能変化 (In vivo 試験)

##### 1) 使用動物

福崎養兎組合より購入した体重 $1.5\text{ kg} \sim 2.0\text{ kg}$ の雄性日本白色種ウサギを使用した。

### 【0061】

##### 2) 試験物質

試験物質はソマトスタチン (CALBIOCHEM社製, Lot B33795), 神経成長因子

(Nerve growth factor; NGF-7S, Sigma社製)を使用した。試験物質は、以下に示す基剤に溶解あるいは希釀し、試験に用いた。

基剤処方：

塩化ナトリウム	0. 9 g
リン酸2水素ナトリウム・2水和物	0. 1 g
水酸化ナトリウム	適量 (pH 7. 0)
注射用蒸留水	全100mL

【0062】

3) 試験方法

ウサギにセラクタール(xylazine)：ケタール(ケタミン)=0. 5:1混合液を筋肉内注射 (0. 9 mL/kg) し、全身麻酔を実施した。角膜を直径6mmのトレパンで標識し、その上位180度の角膜を円形切開しながら8. 0ナイロン縫合糸で縫合した。縫合直後からに基剤あるいは基剤に溶解したソマトスタチン溶液 (100 μM, 0. 02%) およびNGF溶液 (20 μg/ml, 0. 002%) を50 μLずつ、4回/1日点眼投与した。手術後一週間は1日4回抗炎症剤と抗菌剤を点眼投与し、室温23±3°C、湿度55±10%、12時間照明 (8:00点灯、20:00消灯) に設定された飼育室内で1ケージあたり1匹収容し、飼育した。角膜の知覚はCochet-Bonnet 角膜知覚計 (LUNEAU社製) を用いて、手術3日後と1, 2, 3, 4、6週後に角膜知覚機能を測定した。角膜知覚%は、各個体の手術前の知覚を100%とし算出した。

【0063】

4) 試験結果

図3は角膜神経を切断後測定した角膜知覚機能の変化を示している。すべての群において角膜知覚は角膜神経切断3日から1週後に急激な低下が見られたが、2週後からは緩やかな角膜知覚機能の回復傾向が認められた。3週、4週間後にソマトスタチン点眼群において、基剤群と比較して有意な角膜知覚機能回復効果が認められた。

【0064】

実施例1 錠剤

ソマトスタチン	50 mg
乳糖	80 mg
デンプン	17 mg
ステアリン酸マグネシウム	3 mg
結晶セルロース	10 mg

以上の成分を1錠分の材料として、常法により錠剤を成形する。錠剤は必要に応じて通常用いられる腸溶性コーティング剤（例えばフタル酸ヒドロキシプロピルメチルセルロースなど）、糖衣およびフィルム（例えばエチルセルロース）を適用してもよい。

#### 【0065】

##### 実施例2 カプセル剤

ソマトスタチン	75 mg
マンニトール	75 mg
デンプン	17 mg
ステアリン酸カルシウム	3 mg

以上の成分を1カプセル剤の材料として均一に混合し、常法により顆粒状とし、硬カプセルに充填する。この充填する前に必要に応じて顆粒は通常用いられる腸溶性コーティング剤（例えばフタル酸ヒドロキシプロピルメチルセルロース）、糖衣またはフィルム（例えばエチルセルロース）を適用してもよい。

#### 【0066】

##### 実施例3 注射剤

ソマトスタチン	750 mg
カルボキシメチルセルロースナトリウム	500 mg
注射用水	全量 100 mL

以上の成分を常法により無菌的に混和して注射剤を調製する。

#### 【0067】

##### 実施例4 点眼剤

ソマトスタチン	50 mg
ホウ酸	700 mg

ホウ砂	適量 (pH 7)
塩化ナトリウム	500 mg
ヒドロキシメチルセルロース	0.5 g
エデト酸ナトリウム	0.05 mg
塩化ベンザルコニウム	0.005 mg
滅菌精製水	全量 100 mL

滅菌精製水80mLを約80℃まで加温し、ヒドロキシメチルセルロースを加えて攪拌し、液温を室温まで戻す。この液にソマトスタチン、塩化ナトリウム、ホウ酸、エデト酸ナトリウムおよび塩化ベンザルコニウムを加えて溶解する。ホウ砂を適量加えてpHを7に調整する。滅菌精製水を加えて100mLまでメスアップする。

### 【0068】

#### 【発明の効果】

本発明の医薬は三叉神経細胞軸索伸展促進作用および角膜知覚機能回復作用を有することから、ソマトスタチン受容体作動薬は角膜神経の損傷などに伴う角膜知覚機能低下の改善および角膜知覚機能低下に伴うドライアイ症状の改善に有用である。具体的には、ソマトスタチン受容体作動薬を適用することにより、白内障手術後やLASIK手術後の角膜知覚の低下、神經麻痺性角膜症、角膜潰瘍、糖尿病性角膜症などの角膜神経変性に伴う角膜知覚低下、ドライアイ症状の改善効果が期待できる。

### 【0069】

#### 【配列表】

[Sequence Listing]

<110> Senju Pharmaceutical Co. Ltd.

<120> Novel Protein and its DNA

<130> A medicine of the corneal disorder

<160> 2

<210> 1

<211> 41

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<400> TGGCCGTCTT CATTTCCTGC TCGCCGCTCA CTTTGACCAA G 41

<210> 2

<211> 42

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<400> GTGGGCAAGA TGCGCGCTGT GAATGGGGTT GGCGCAGCTG TT 42

【0070】

【図面の簡単な説明】

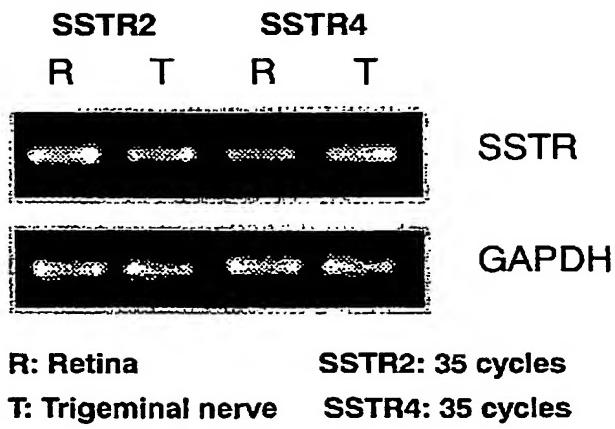
【図1】 ウサギ三叉神経と網膜でのソマトスタチン受容体の発現を示す図である。

【図2】 ウサギ三叉神経節細胞とその細胞からの軸索伸展を示す図である。

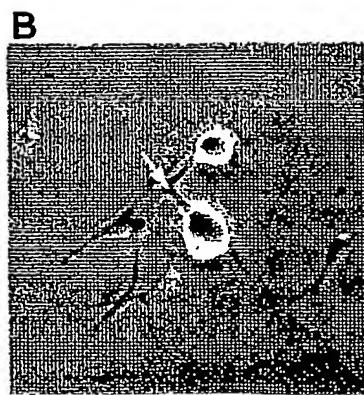
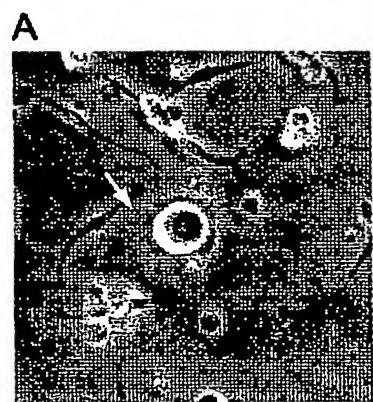
【図3】 ウサギの角膜神経を切断した後の角膜知覚機能を示す図である。

【書類名】 図面

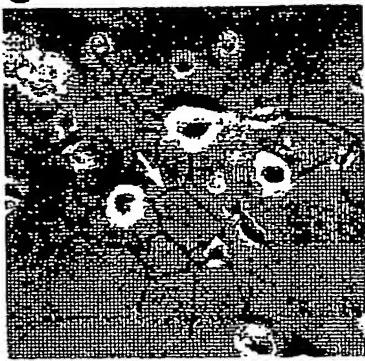
【図 1】



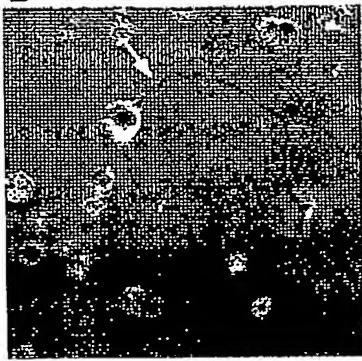
【図 2】



C



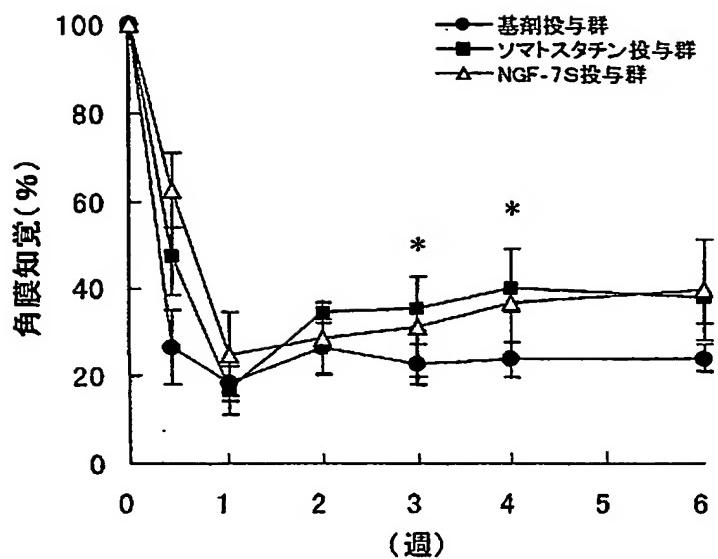
D



E



【図3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 本発明は、角膜の術後の角膜知覚回復やドライアイの症状を改善する新しいタイプの医薬を提供することである。

【解決手段】 ソマトスタチン受容体作動薬を適用することにより、白内障手術後、LASIK手術後、神経麻痺性角膜症、角膜潰瘍、糖尿病性角膜症などの角膜神経変性に伴う角膜知覚低下、ドライアイ症状の改善に有用である。

【選択図】 なし

## 認定・付加情報

特許出願の番号 特願2002-318881  
受付番号 50201653707  
書類名 特許願  
担当官 鈴木 夏生 6890  
作成日 平成14年11月20日

## &lt;認定情報・付加情報&gt;

【提出日】 平成14年10月31日

次頁無

特願2002-318881

出願人履歴情報

識別番号 [000199175]

1. 変更年月日 1990年 8月22日  
[変更理由] 新規登録  
住 所 大阪府大阪市中央区平野町2丁目5番8号  
氏 名 千寿製薬株式会社